

KOTA

To the next generation - presented by KOTA town -

Prestige Lectures

幸田プレステージレクチャーズ

— ものづくり日本 講演会 —

幸田プレステージレクチャーズ 講演録

20

幸田町

幸田プレステージレクチャーズ
講演録

20



幸田プレステージレクチャーズ への想い

幸田町長 成瀬 敦

日頃より町政の運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り心から御礼申し上げます。

幸田プレステージレクチャーズ—ものづくり日本講演会—は、平成25年3月19日第1回に始まり、現在まで20回の歴史を刻むことができました。これまでに快く講演をお引き受けくださった20人の講師の皆様、そして、この講師の方々とは幸田町を結び付けてくださった名古屋大学特任教授の原邦彦先生に心から感謝を申し上げます。

この講演会は、世界を震撼させる技術を開発されたトップ技術者や世界経済に大きな影響を与えておられるトップ経営者の皆様に、自らのご経験をもとに革新的技術や企業の経営哲学などをお話しいただくことで、参加された皆様に広い視野をもって地域や日本の将来を考えていただく機会としたいという思いの下で開催してきました。

幸田町は、製造品出荷額が1兆円を超える有数の「ものづくり産業」のまちです。しかし、グローバル化や技術革新などにより、めまぐるしく顧客ニーズも変わる中、今後も安定した地域経済を継続していくためには、本町の経済の核となっている「ものづくり産業」を持続的に発展させていくことが必要不可欠となってきます。様々な工夫を企業や大学、自治体が連携し実施していくことで、本町、さらには、この地域の活力を見出していきたいと思っています。

普段お目にかかることの大変難しい講師の皆様

方の世界トップレベルの貴重な講演に参加された方々は20回で延べ6,722人にも達し、今までに経験されたことのない驚きと感動を感じていただいたことと思います。

特に、第11回のノーベル物理学賞を受賞された名古屋大学未来材料・システム研究所未来エレクトロニクス集積研究センター センター長・教授の天野浩先生、第17回の東京理科大学栄誉教授の藤嶋昭先生等のご講演の際には中高生の方も延べ689人が聴講参加されており、将来の夢や希望につながり、これからの未来を描く貴重な機会となったのではないかと思います。

原邦彦先生をはじめ関係の皆様方のご理解とご協力により、このような貴重な講演会を幸田町として開催できましたことに心から感謝いたしますとともに、これを機会に幸田町への関心を高めていただくきっかけづくりとして、今後の企業立地や新産業創造、さらには幸田町の未来を託す人材育成に生かしていけたらと考えております。

コロナ禍により生活様式も変化する中ではありますが、今後も幸田プレステージレクチャーズが産官学連携の一環として引き継がれ、参加された皆様が、「幸せのまち幸田町」から明日へつながる何かを感じ、実践していただけるきっかけとなりますことを心から祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



幸田プレステージレクチャーズ 講演録発刊に寄せて

国立大学法人豊橋技術科学大学名誉教授
東海国立大学機構名古屋大学特任教授
原 邦彦

2013年（平成25年）3月19日、記念すべき第1回幸田プレステージレクチャーズが開催されました。以来、本年までに合計20回、ノーベル賞受賞者、文化勲章受章者、欧州発明家賞受賞者、フランス国家功労勲章（シュバリエ）受章者、日本国際賞受賞者など、国際的に特筆される業績をあげられ、時代の先端を行く科学者、技術者、そしてグローバル企業のトップ経営者による講演会が幸田プレステージレクチャーズとして継続して開催されてきました。これもひとえに大須賀一誠前町長様ならびに成瀬敦町長様のリーダーシップ、幸田町議会のご理解、加えて幸田町職員の皆様の絶大なご尽力の賜物であり、改めて関係の皆様に敬意と謝意を表する次第です。

私は、幸田プレステージレクチャーズの企画に始まり、講師の先生の推薦ほか、ご講演の交渉、当日のアテンドなどについてずっとお手伝いをさせていただいてきました。この間、常に心掛けてきましたことが三つあります。

一つ目は、科学や技術の世界、また企業経営の世界で、世界トップレベルのご業績を上げられ、世界をリードされておられ、普段お目にかかることが大変むつかしい方々を幸田町にお招きし、直にお話を聴かせていただく機会を作ること、

二つ目は、プレステージレクチャーズに聴講参加されたすべての皆さまに、今までに経験されたことのない驚きと感動を感じていただき、ご自身の将来と地域の未来をデザインする際の貴重なヒントを得ていただくこと、

三つ目は、この稀有な講演会を幸田町が主催できることを継続して示すことによって、国や近隣の自治体あるいは企業に対して、「幸田町は農業、製造業、それに学術・文化のどこから見ても活力ある並外れた実力を持った自治体であって、ぜひ訪れてみたい、交流したい、事業進出したい」と思っただけのきっかけを作ること、この三つでした。

私自身、これまでの50年にわたる企業、研究所、大学での勤務を通して国内外の多くの著名な科学者、技術者、発明家の方々あるいはグローバル企業の経営者の方々とお付き合いをさせていただいてまいりました。そういう方々に幸田プレステージレクチャーズに寄せる私の思いをご説明し、ご講演をお願いしてまいった次第です。これまでお願いしたすべての皆様から快くご講演をお引き受けいただけましたことは、私にとって大変幸せなことでした。

木製自動織機の発明で歴史に名を遺した世界の発明王豊田佐吉さんは、「障子を開けてみよ、外は広いぞ」という名言を残しています。幸田プレステージレクチャーズに聴講参加されたすべての皆様方は、講師の先生方が如何にして偉大なご業績を成し遂げられたかについて、ご本人から直にお聴きすることで、日常という「こころの障子」が開けられ、先生方の並外れた情熱を感じ取り、そしてこれまで思ってもみなかった壮大な世界があることに心をときめかされたのではないのでしょうか。回を重ねることで、当初考えました三つの目標が次第に確かなものになってきていると実感しています。加えて、幸田町の中学校、高等学校が正規の学校行事の一つに生徒たちの講演会への聴講参加を組み込んでくださるようになったことは、このプレステージレクチャーズの趣旨に照らして大変喜ばしいことだと思っています。

2020年初頭から突然に始まったCOVID-19禍によって、ものの考え方や行動様式が大きく変わらざるを得なくなり、従来と全く同じ運営形態での開催は難しくなりましたが、引き続き幸田プレステージレクチャーズの精神が引き継がれ、幸田町の財産となっていくことを切に期待するところです。

末筆ながらこれまでご多用中にもかかわらずご懇切なるご講演を賜りました講師の先生方に改めて深甚なる謝意を表します。

—幸田プレステージレクチャーズとは—

幸田プレステージレクチャーズは、世界を震撼させる技術を開発されたトップ技術者や世界経済に大きな影響を与えておられるトップ経営者の皆さまを幸田町にお招きし、自らのご経験をもとに、革新的技術、日本や世界の経済情勢、企業の経営哲学、将

来の夢などをお話しいただくことで、近隣地域を含め、住民の皆さまや企業従事者の皆さまなど、受講者に知的興奮を味わっていただきながら、広い視野をもって地域や日本の将来を考えていただく機会として開催する講演会です。

過去に発行された開催予告チラシ

第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



デンソーにおける 次世代自動車用 エレクトロニクス — 進化する自動車を支える —



株式会社デンソー
常務役員
伊奈 博之 氏



デンソーは世界有数の自動車部品メーカーとして、あるべき未来の自動車、交通インフラの実現に向けて、環境、安全、快適、利便の4分野に重点的に取り組んでいます。

この中で幸田製作所の主要製品でもあるエレクトロニクス関連製品の果たすべき役割についてご紹介します。



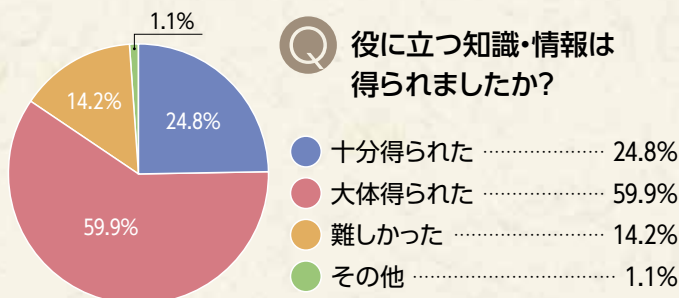
講師プロフィール

- 1981年3月 横浜国立大学工学部電気工学科 卒業
- 1981年4月 日本電装株式会社 入社
- 1996年10月 株式会社デンソーへ社名変更
- 2005年1月 電子技術1部 部長
- 2008年1月 電子製造部 主幹
- 2009年6月 常務役員(電子事業部担当) 就任
- 2012年6月 常務役員(情報通信事業部担当)

アンケート結果

参加者数 406人
(一般：165人、企業：143人、公共団体等：98人)

アンケート回答者数 294人(回答率：72.4%)



自由意見

- ・デンソーの車社会への安全安心への取組み情報が良く分かった。今後も新製品の開発に向け、全世界をリードしてほしいと願っています。
- ・デンソーで何を作っているのか分かってよかった。
- ・未来のものづくりについて視野が広がりました。
- ・デンソーの強み、ITS技術の更なる向上、運転しやすい道路環境の向上が必要ではないかと今日の講演を聴き感じました。誰もが安全に運転できる技術で更なるデンソーの発展を応援しております。
- ・安全に関する新技術が動画で分かりやすかった。

第2回 平成25年6月28日(金) 午後1時30分～

豊かな長寿社会に向けて 人と協調し支援する パートナーロボット



トヨタ自動車株式会社
 パートナーロボット部
 理事
高木 宗谷 氏

トヨタはグローバルビジョンとして、「笑顔のために、期待を超えて」というスローガンを持っています。いいクルマづくりを通して、いい町、いい社会づくりに貢献することを目指しているものです。その中で、パートナーロボットの開発は、未来のモビリティ社会をリードする新しいライフスタイルの一つの提案として考えています。

トヨタパートナーロボットのコンセプトは、人の役に立つ、人のパートナーとしてのロボットを目指しており、そのためには、「かしこい」能力と「やさしい」能力が必要と考えています。

今回、今までのパートナーロボットの開発経緯と、2011年、12年に公開した介護・医療・生活支援向けパートナーロボットを中心にご紹介します。



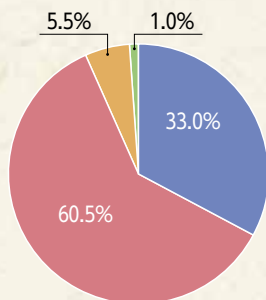
講師プロフィール

1975年 早稲田大学理工学研究科修士課程修了
 同年トヨタ自動車(株)入社
 1991～1994年 ベルギー・ブラッセルのトヨタモータヨーロッパに赴任
 2001年 生産技術開発部部長
 2005年 パートナーロボット開発部(新設) 部長
 現在 パートナーロボット部 理事

アンケート結果

参加者数 305人
 (一般：109人、企業：112人、公共団体等：84人)

アンケート回答者数 210人(回答率：68.9%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

- 十分得られた 33.0%
- 大体得られた 60.5%
- 難しかった 5.5%
- その他 1.0%

自由意見

- ロボットの進化の現実に、驚きといったその興味を持ちました。
- 非常に説明で良くわかった。未来に向かっていくことが分かった。
- ロボットがわが子でありたい。現況を前進するよう努力・研究をお願いいたします。
- 今後のロボット技術への見込み、発展の道がみえたかと思えます。
- 大学の講義でも聞いていたが、ロボット作りにはまだ課題が多いことを改めて感じた。

サステイナブル(持続可能)なモビリティの実現を目指して



株式会社 豊田中央研究所
代表取締役
(元トヨタ自動車株式会社 代表取締役副社長)
瀧本 正民 氏



自動車は今後もサステイナブルであるためには、「石油の将来に対する不安への対応」に加えて、「CO₂問題」「NO_x、オゾンなどの大気汚染の問題」、さらには、「自動車が主原因の交通事故」などの問題を同時に解決する必要があります。

今回、最新の研究開発状況を紹介しながら、今後の自動車ビジネスで留意すべきことなどをご紹介します。

講師プロフィール

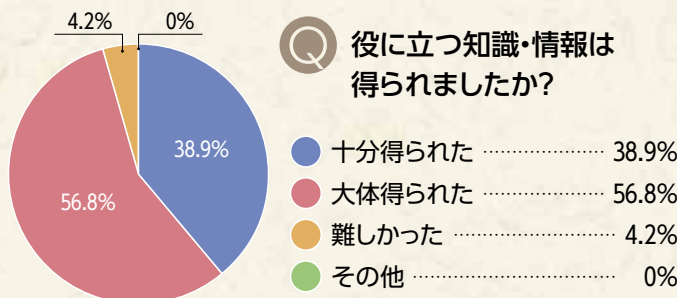
1970年3月、京都大学大学院工学研究科修士課程修了。
同年4月、トヨタ自動車工業株式会社(現トヨタ自動車株式会社)に入社。主としてエンジンの開発業務に従事。
1994年6月から、ミニバン、SUV、商用車、電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車などの車両を開発するセンターで企画業務を担当後、1999年に取締役就任。その後、常務取締役、専務取締役を経て、2005年に代表取締役副社長に就任。

2009年6月、トヨタ自動車株式会社相談役就任と同時に、株式会社豊田中央研究所代表取締役(CEO)に就任し、グループ企業の将来のための研究開発を推進中。
2011年6月から、学校法人トヨタ学園豊田工業大学理事長にも就任し、現在に至る。

アンケート結果

参加者数 295人
(一般：96人、企業：143人、公共団体等：56人)

アンケート回答者数 200人(回答率：67.8%)



自由意見

- 世界に近い専門家の話を聴くことができる機会を提供くださりありがとうございます。
- 進んだ技術を聞き、参考となりました。
- 将来動向がよく分かり参考になった。
- ものづくり愛知、ものづくり幸田、幸田町だからこそできるこのような取組みをぜひ継続してください。
- 今回のように近づく将来に何か温かい気持ちになって、非常に良かった。
- なかなか普段聞けない貴重なお話が聞け、勉強になりました。

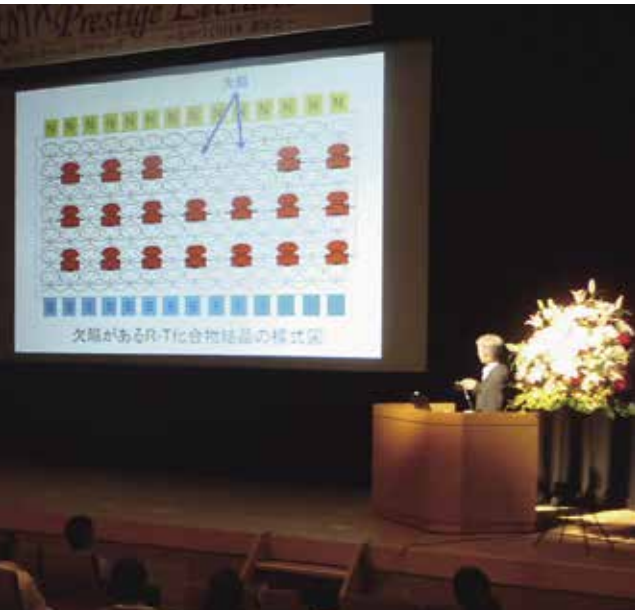
第4回 平成26年7月4日(金) 午後1時30分～

ネオジム磁石は地球を救う!



インターメタリックス株式会社
 最高技術顧問
佐川 真人 氏

ネオジム磁石は、携帯電話の振動モータからハイブリット車や電気自動車の駆動モータまで幅広く使われて社会の必需品になりました。ネオジム磁石はなぜ強いのか、どのようにしてネオジム磁石を発明したか、ネオジム磁石の弱点と対策、磁石の研究はどのように進められているのかについてご紹介するとともに、人類が直面する問題解決のために、優秀な研究者の育成の重要性をお伝えしたいと思います。



講師プロフィール

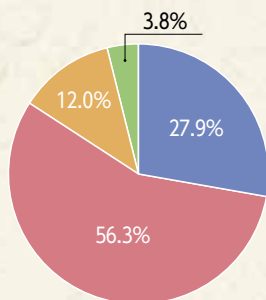
1966年3月 神戸大学工学部電気工学卒業
 1968年3月 神戸大学大学院修士課程(電気工学)修了
 1972年3月 東北大学大学院博士課程修了(金属材料工学)、学位取得(工学博士)
 1972年4月 富士通(株)入社

1982年5月 同社 退職
 1982年5月 住友特殊金属(株)入社
 1988年2月 同社 退職
 1988年3月 インターメタリックス(株)設立
 2012年6月まで同社代表取締役。現在同社最高技術顧問

アンケート結果

参加者数 352人
 (一般: 118人、企業: 152人、公共団体等: 82人)

アンケート回答者数 163人(回答率: 46.3%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

- 十分得られた 27.9%
- 大体得られた 56.3%
- 難しかった 12.0%
- その他 3.8%

自由意見

- 講師のひたむきな向学、研究心に感心させられた。
- 磁石の開発も興味はあったが、研究全体に対する取り組みのアドバイスをいただけたことが良かった。
- 素晴らしい夢と希望を感じさせてくれるレクチャーだった。
- 講師の考え方、生きざまが参考になった。
- 志が高く日本を救う内容だった。
- 貴重なお話が聞けて知見を広げる機会となった。

リチウムイオン電池 現在・過去・未来



旭化成株式会社
フェロー、吉野研究室 室長
吉野 彰氏

リチウムイオン電池は、携帯電話などのIT機器の電源として広く使われてきており、さらには、これからは電気自動車などへの展開が始まっています。このリチウムイオン電池の開発経緯と、これまでの成長経緯を振り返り、これから未来に向けてどのように展開していくかについてご紹介します。

講師プロフィール

吉野氏は、1972年3月に京都大学大学院工学研究科石油化学専攻修士課程を修了後、同年4月に旭化成(株)へ入社され、主として機能性高分子等の研究開発業務に従事されました。1981年から新型二次電池の研究に着手され、1985年にリチウムイオン二次電池の発明に至りました。1992年に(株)東芝との合併会社である(株)エイ・ティー・バッテリーの設立に携わり、リチウムイオン二次電池の事業化に成功されました。そして、これらの業績に対し国内外において、2004年には「紫綬褒章」、

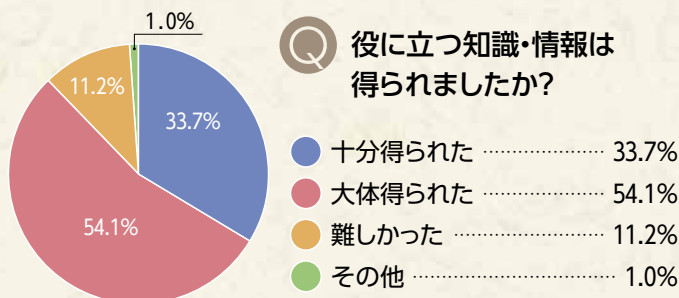


2013年にはエネルギー科学の分野で最も権威のある賞の一つである「グローバルエネルギー賞」(ロシア)、2014年には工学分野のノーベル賞と呼ばれる「チャールズ・スターク・ドレイパー賞」(全米技術アカデミー)など数多くの著名な賞を受賞されておられます。

アンケート結果

参加者数 321人
(一般：145人、企業：134人、公共団体等：42人)

アンケート回答者数 218人(回答率：67.9%)



自由意見

- 次世代のビジネスヒントを得られた。
- 大学の講義に来たみたいで勉強になった。
- 研究者の方の苦労と想いが伝わってきた。
- 現在・過去・未来、人生の道しるべのようだった。
- 質問の時間を取ってもらえるとありがたい。
- ローマは一日にしてならずを実感できた。
- 大変ためになった。

第6回 平成27年1月21日(水) 午後1時30分～

光技術による 未知未踏への挑戦



浜松ホトニクス株式会社
 常務取締役 中央研究所長
原 勉 氏



『真の価値は金(かね)ではない、新しい知識だ』
 浜松ホトニクス株式会社のこの哲学を具現化するため、中央研究所では主に、「情報・計測分野」、「材料分野」、「健康・医療分野」及び「バイオ分野」において、光に関する基礎研究及び応用研究を進めています。人類には知らないこと、分からないことが無限にあります。光を用いてこれらの未知未踏分野を切り拓くことが我々の使命であり、光を深く追求することで世の中の様々な問題を解決し人類社会に寄与できるものと考えています。今回は、具体的な研究開発の一端とともに、企業風土や文化、研究開発の考え方についてご紹介します。

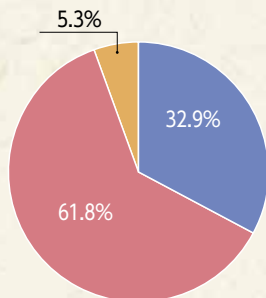
講師プロフィール

| | | |
|-------|----------|--|
| 【学歴】 | 昭和49年3月 | 金沢大学 工学部 電気工学科 卒業 |
| | 昭和51年3月 | 金沢大学大学院 工学研究科 電気工学専攻 修了 |
| | 平成3年3月 | 工学博士(金沢大学) |
| 【職歴】 | 昭和51年4月 | テスコ株式会社 入社 研究部 技術管理課(特許管理業務に従事) |
| | 昭和54年6月 | 浜松ホトニクス株式会社 入社(空間光変調器、光学結晶・光学薄膜、光情報処理、光計測の研究開発に従事) |
| | 平成2年2月 | 中央研究所発足 中央研究所第4研究室室長代理 |
| | 平成5年11月 | 中央研究所第4研究室長 |
| | 平成18年10月 | 中央研究所所長代理 |
| | 平成21年12月 | 取締役就任 |
| | 平成22年11月 | 中央研究所長(現任) |
| | 平成24年11月 | 常務取締役就任(現任) |
| 【その他】 | 平成17年10月 | 静岡大学 客員教授(現任) |
| | 平成23年3月 | (財)浜松電子工学奨励会 理事(現任) |
| | 平成23年3月 | (財)浜松地域イノベーション推進機構 理事(現任) |
| | 平成23年3月 | 次世代レーザープロセッシング技術研究組合 監事(現任) |
| | 平成23年4月 | 日本学術振興会 179委員会 副委員長(現任) |
| 【受賞歴】 | 平成24年度 | 高柳記念賞 |

アンケート結果

参加者数 289人
 (一般：120人、企業：127人、公共団体等：42人)

アンケート回答者数 188人(回答率：65.1%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

- 十分得られた 32.9%
- 大体得られた 61.8%
- 難しかった 5.3%
- その他 0%

自由意見

- これからの社会に光技術が大貢献しそうな予感がした。
- とても示唆に富んだ内容で素晴らしかったです。
- 最新の知識技術の情報が得られ有意義です。
- いつも第一線で活躍する方が講演されているので大変素晴らしい企画だと感じています。
- 企業理念から元気をもらえた。
- 大変勉強になりました。今後の業務に「考え方」等を活かしていきたいと考えます。
- 失敗談を聞きたい。

低温プラズマ科学とその応用 ～幸田町で見られるオーロラ 実演付～



名古屋大学
未来社会創造機構 教授
プラズマ医療科学
国際イノベーションセンター長
堀 勝氏



プラズマは、電子、イオン、ラジカル、光の集団で、雷やオーロラがプラズマです。現在、プラズマを用いて、携帯など様々な製品が作られています。最近プラズマによって癌のみが死滅する、カビの生えないみかんや巨大金

魚を作り出すことができるなどビックリする現象が報告され、プラズマの新しい展開が始まっています。今回、プラズマの魅力と産業、医療、農業への応用を紹介し、プラズマによって実現できる未来社会を紹介します。

講師プロフィール

【学歴】

昭和56年3月 早稲田大学理工学部電子通信学科卒業
昭和58年3月 同上 大学院理工学研究科修士課程修了
昭和58年4月 名古屋大学大学院工学研究科博士課程後期課程電子工学専攻入学
昭和61年3月 同上 修了 工学博士(名古屋大学)

【職歴】

昭和61年4月 株式会社 総合研究所超LSI研究所 入社
平成4年4月 名古屋大学助手(工学部)、平成6年4月 名古屋大学講師(工学部)、平成8年7月 名古屋大学助教授(工学部)
平成9年8月～12月 英国ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所 客員研究員
平成16年4月～ 名古屋大学教授(工学研究科)

平成21年4月～平成25年3月 名古屋大学大学院工学研究科附属プラズマナノ工学研究センター長

平成23年11月～ NU-SKK先進プラズマナノ材料研究所長(韓国)
平成25年8月～ 名古屋大学プラズマ医療科学国際イノベーションセンター長
平成26年4月～ 名古屋大学 未来社会創造機構・人とモビリティ社会の研究開発センターくらし・健康基盤情報部門長

【他の職歴】

応用物理学会 東海支部 支部長(平成17～19年)、応用物理学会常務理事(平成21年～22年)、表面技術協会理事(平成22年～23年)、応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会幹事長(平成22～23年)、日本学術会議連携委員(平成23年～)など

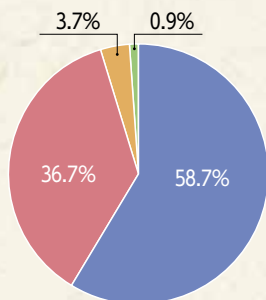
【受賞歴】

平成22年度文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)(2010)、第9回産学連携功労者賞(科学技術政策担当大臣賞)(2011)、プラズマ材料科学賞(2012)他11件を受賞。

アンケート結果

参加者数 392人
(一般：171人、企業：132人、公共団体等：89人)

アンケート回答者数 218人(回答率：55.6%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

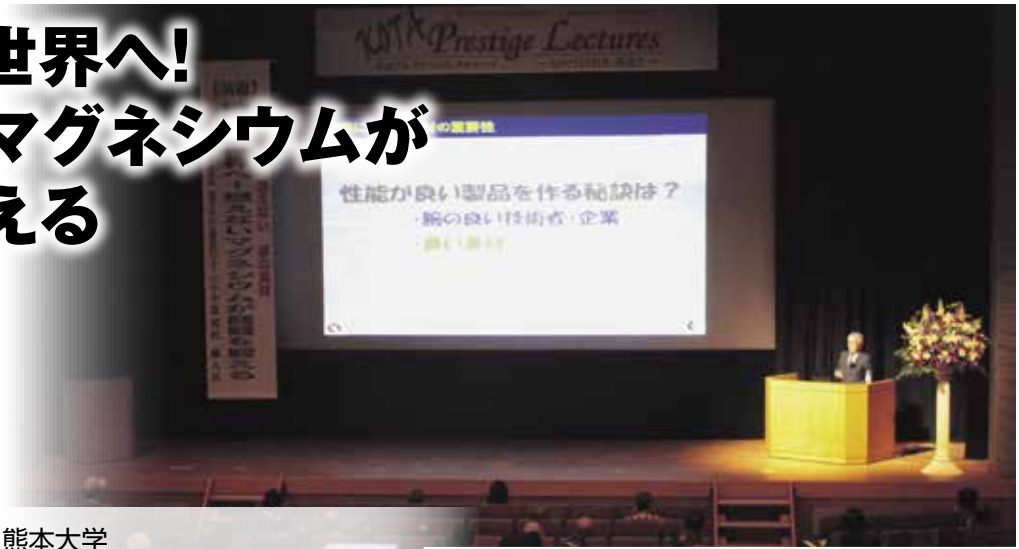
- 十分得られた 58.7%
- 大体得られた 36.7%
- 難しかった 3.7%
- その他 0.9%

自由意見

- 初めて参加したが興味が湧いた。
- 大変夢のある講演で良かった。
- 一般市民にもとても分かりやすく素晴らしい講演でした。
- 幸田町でこのような講演会が開催されることは、将来の町の発展につながりそうな予感がしてワクワクする。
- 引き続き最先端の技術動向の紹介をお願いします。
- プラズマがとても身近な存在で色々な分野に使われている事が良く分かりました。

第8回 平成27年11月6日(金) 午後1時30分～

地域から世界へ! 燃えないマグネシウムが 産業を変える



熊本大学
 先進マグネシウム国際研究センター
 センター長/教授
河村 能人 氏

軽くて強く燃え難いマグネシウム合金が熊本大学で開発され、KUMADAIマグネシウム合金として世界的に注目されている。この革新的な合金が開発されたことによって、マグネシウム合金の普及を阻害していた課題が一気に解決できる目処が立ち、マグネシウム新時代が到来しようとしている。



講師プロフィール

【略歴】

- 1983年3月 名古屋大学工学部 卒業
- 1985年3月 名古屋大学工学部大学院工学研究科博士前期課程 修了
- 1985年4月 日本電装(株)(現株デンソー) 研究開発部 研究員
- 1993年3月 東北大学大学院工学研究科博士後期課程 修了(工学博士)
- 1993年4月 東北大学金属材料研究所 助手
- 1999年9月 東北大学金属材料研究所 助教授
- 2000年10月 熊本大学工学部 助教授
- 2004年4月 熊本大学工学部 教授
- 2011年12月 熊本大学先進マグネシウム国際研究センター センター長

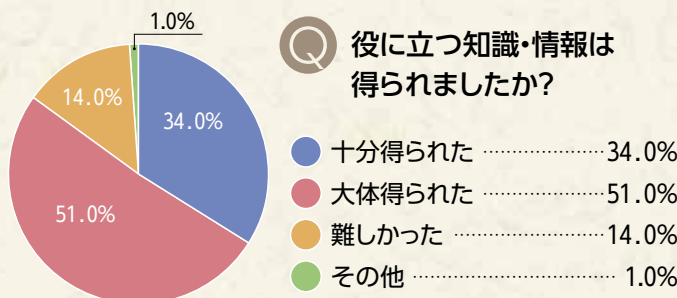
【主な受賞歴】

- 日本金属学会「第58回功績賞」受賞(2000年)
- 日本金属学会「論文賞」受賞(2002, 2005, 2007年)
- 日刊工業新聞社モノづくり連携大賞「新技術開発賞」受賞(2008年)
- 素形材センター素形材産業技術賞「奨励賞」受賞(2009年)
- IMS 2011 International Metallographic Contest, First Place, Class 3 Electron Microscopy-Transmission and Analytical (2011年)
- 文部科学省科学技術政策研究所「ナイスステップな研究者2012」に選定(2012年)
- 本多記念会「第10回 本多フロンティア賞」受賞(2013年)
- 日本ファッション協会「日本クリエイション賞」受賞(2015年)
- 日本金属学会「功労賞」受賞(2015年)

アンケート結果

参加者数 273人
 (一般: 127人、企業: 87人、公共団体等: 59人)

アンケート回答者数 190人(回答率: 69.5%)



自由意見

- 産業がどう変わっていくのかの情報を得る場となるとよいと思います。
- 先端情報が収集できてよいです。
- KUMADAIマグネシウム合金のすばらしさがよくわかりました。実用化が楽しみです。
- 夢を語ってくれる講演でとてもよかった。
- ものづくりの基本となる心構えが参考になった。
- 最後先生のモットーの言葉、思いが心に響きました。

放射線が拓く 植物の新しい世界



東京大学 大学院
農学生命学科学研究科 教授
内閣府 原子力委員会委員
中西 友子氏

植物は周知の通り水と養分元素で生育するが、実際に水や養分元素がどのように吸収されるのだろうか。植物の水だけの姿、吸収された水の体内循環など、放射線やラジオアイソトープを駆使することで初めて見ることができる植物の動態を紹介する。



猿橋賞、原子力学会貢献賞、日本放射化学会賞、フランス国家功労勲章(シュバリエ)を受章。スウェーデン王立工学アカデミー会員。

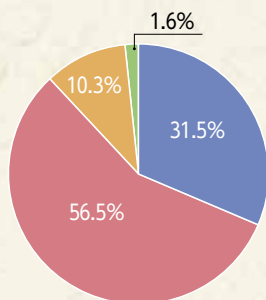
講師プロフィール

東京大学理学系研究科博士課程修了。理学博士。米国ローレンスバークレイ研究所博士研究員などを経て東京大学農学部助手。助教を経て東京大学大学院農学生命科学研究科教授。その間、東京大学総長補佐、東京大学環境安全本部・本部長などを兼務。第20期日本学術会議会員。学外委員では、文部科学省科学技術・学術審議会委員、日本ユネスコ国内委員会委員、文化審議会委員、文部科学省参与などを兼任し、現在は内閣府原子力委員会委員、日本工学アカデミー副会長、日本放射化学会会長などを兼務。

アンケート結果

参加者数 305人
(一般：158人、企業：101人、公共団体等：46人)

アンケート回答者数 198人(回答率：64.9%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

- 十分得られた 31.5%
- 大体得られた 56.5%
- 難しかった 10.3%
- その他 1.6%

自由意見

- 放射線の利用の可能性を感じた。放射線福島恐れず。植物は自分で考え行動できるのか。
- 福島の安全性は言われても疑心でさけていたが、これからは色メガネをかけずに買い物ができそう。
- 現代科学の最先端を学ぶことができる講演会である。継続を期待します。
- 中西先生の中性子を当てたときの写真集を楽しみにしています。福島での今後のご活躍をご祈念します。
- 町民向けにこのような講演を企画されたのは素晴らしい取り組みと思いました。

第10回 平成28年7月8日(金) 午後1時30分～

カーボンナノチューブの発見



名城大学 大学院
 理工学研究科 終身教授
 及び 日本学士院会員
飯島 澄男 氏

今、ナノカーボン材料が基礎科学と産業応用の両分野で注目されている。
 その中心にあるのがカーボンナノチューブである。その発見には電子顕微鏡が威力を発揮した。その発見の経緯、ナノ材料科学としての面白さ、エレクトロニクスからバイオテクノロジーなど多岐にわたる応用研究の現状について紹介する。



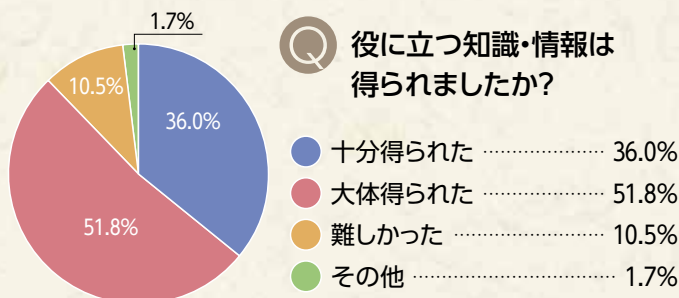
講師プロフィール

1963年電気通信大学卒業後、東北大学大学院で学位取得(物理)。その後、アリゾナ州立大学、ケンブリッジ大学で12年間過ごし、1982年に帰国。科学技術開発事業団(現科学技術振興機構)、NECを経て、現在、名城大学終身教授、NEC特別主席研究員、産業技術総合研究所名誉フェロー及び名古屋大学特別招へい教授を兼務、現在に至る。
 1970年代の米国滞在中に、「高分解能電子顕微鏡技術」を開発、世界に先駆けて結晶中の原子の撮影に成功、物理学、結晶学、鉱物学、材料科

学の発展に多大な貢献をした。金属ナノ結晶の構造不安定性の発見、カーボンナノチューブの発見などで、世界のナノサイエンス・ナノテクノロジーを先導する。
 これらの研究に対して国内外から多くの褒賞を得ている。(仁科記念賞、朝日賞、恩賜賞・日本学士院賞、藤原賞、文化勲章、ベンジャミン・フランクリン・メダル、バルザン賞、カプリ賞、アストゥリアス皇太子賞など。) さらに、米国、ノルウェー、中国等の科学アカデミー外国人会員、日本学士院会員に選ばれる。

アンケート結果

参加者数 302人
 (一般: 167人、企業: 98人、公共団体等: 37人)
 アンケート回答者数 189人(回答率: 62.5%)



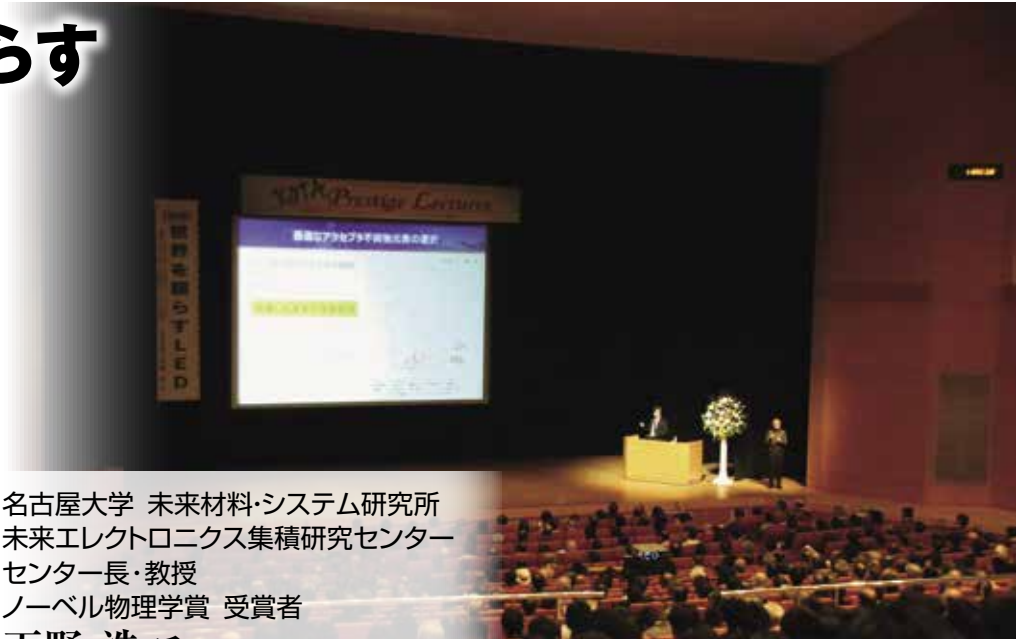
自由意見

- 本材料が世界的に使われることを期待します。
- 一流の研究者のお話を町民の方が集中して聴いている。すごいですね。
- 場違いの気がしましたが新しい知識を聞いてよかったです。
- あまりにもすごい人なので大きすぎる感じがします。

世界を照らす LED



名古屋大学 未来材料・システム研究所
 未来エレクトロニクス集積研究センター
 センター長・教授
 ノーベル物理学賞 受賞者
天野 浩氏



青色LEDの開発ストーリーを交えながら、社会が直面している問題や今後の研究、若者へのメッセージ、企業経営者・技術者へのメッセージなどをお話いただきます。

講師プロフィール

【略歴等】昭和63年、名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程満期退学。工学博士。名古屋大学助手を経て、平成4年から恩師の赤崎勇教授とともに名城大学に赴任。講師、助教授を経て平成14年から教授。平成22年から名古屋大学大学院工学研究科教授。平成27年から名古屋大学未来材料・システム研究所未来エレクトロニクス集積研究センター センター長・教授。

【主な受賞歴】

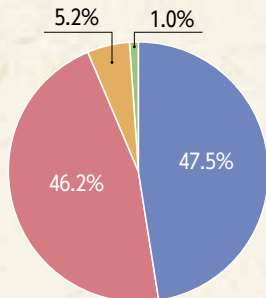
- 平成10年12月 ランク賞(イギリス)
- 同 13年3月 丸文学術賞
- 同 14年11月 武田賞
- 同 21年9月 応用物理学会フェロー
- 同 26年11月 文化功労者、文化勲章



- 平成26年12月 ノーベル物理学賞
- 同 27年1月 静岡県民栄誉賞
- 4月 科学技術分野の文部科学大臣表彰
科学技術賞 研究部門
- 5月 中日文化賞
- 9月 愛知県名誉県民 他

アンケート結果

参加者数 910人
 (一般：303人、企業：76人、公共団体等：40人、中学生・高校生：491人)
 アンケート回答者数 751人(回答率：82.5%)



役に立つ知識・情報は得られましたか？

- 十分得られた 47.5%
- 大体得られた 46.2%
- 難しかった 5.2%
- その他 1.0%

自由意見

- ・今回は3中学(幸田中学校、南部中学校、北部中学校)も参加され、若い人にとって有意義と思いました。
- ・若い中学生の質問はgoodでした。
- ・目標、夢、先がなかなか見えない中、しっかりと先が見えていたのがすごいなと思いました。
- ・よい話が聞けました。今までのプレステージで最高でした。
- ・普通では直接話をお聞きすることができない方達の講演が町内で聞くことができ、とても嬉しいです。
- ・「挑戦、自立、貢献」を活かして行きたい。
- ・非常に分かりやすく解説して下さいためになりました。
- ・天野先生の人柄が素晴らしい。

第12回 平成29年1月20日(金) 午後1時30分～

人工知能は世の中をどう変えるか



はこだて未来大学
副理事長・教授
松原 仁 氏

囲碁でトップクラスのプロ棋士にコンピュータが勝つ、コンピュータが書いた小説が文学賞の一次審査を通るなど、最近の人工知能の進歩は目を見張るものがあります。ここでは、これから人工知能が世の中をどう変えていくかについて、お話しいただきます。

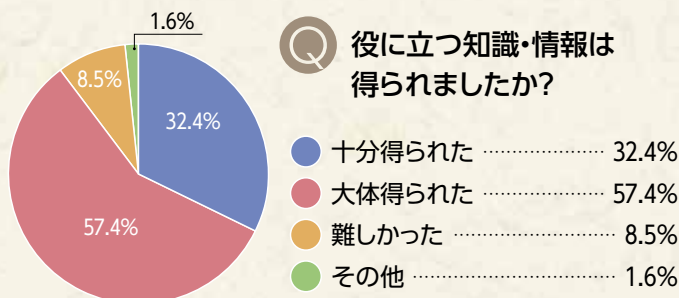


講師プロフィール

1981年、東京大理学部情報科学科卒業。
 1986年、同大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。工学博士。同年通産省工技院電子技術総合研究所（現産業技術総合研究所）入所。2000年、公立はこだて未来大学教授を経て、2016年、同大学副理事長就任。この他に、前人工知能学会会長、情報処理学会理事、観光情報学会理事を務める。

アンケート結果

参加者数 311人
 (一般：216人、企業：60人、公共団体等：35人)
 アンケート回答者数 200人(回答率：64.3%)



自由意見

- ・コンピュータにも創造性があることを初めて知りました。
- ・講演資料を配布されて良かった。
- ・将棋の話、昔読んだ星新一の小説の話は面白かったです。
- ・本質を分かりやすく説明され、勉強になりました。
- ・学生にも聞く機会があれば良いです。夏休み・冬休みの企画。高校生の娘が興味を持っています。
- ・素晴らしい研究、成果をあげられた方の講演をうかがう機会をつくってくださりありがとうございます。

AI・機械学習により 何が変わろうとしているのか



日本マイクロソフト株式会社
技術統括室、業務執行役員
ナショナルテクノロジーオフィサー
田丸 健三郎 氏



ITを取り巻く様々な環境が変わり、また高度化していく中で製品・サービスの開発手法、活用方法が大きく変わろうとしています。AI・機械学習を牽引している要素、今の最新状況、そして今後の展望について事例を交えつつ紹介します。



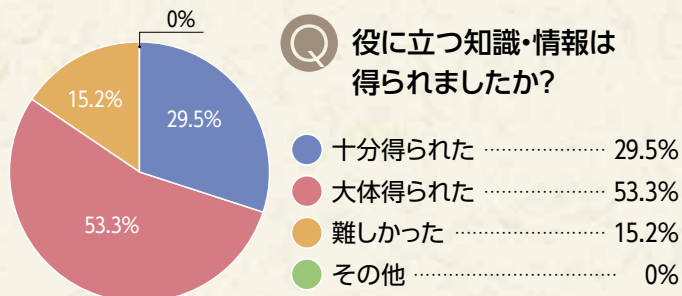
講師プロフィール

1992年マイクロソフト入社。米国Microsoft Corporation (Redmond)にて、主にExchange Server 4.0、5.0などのメッセージング製品の開発を担当。Exchange Server国際版の開発、及び機械学習によるコミュニケーションデータの分析、モデル化を担当後、日本マイクロソフト株式会社への移籍後は、East Asiaにおけるサーバーアプリケーション開発グループの統括責任者を務め、2009年10月より現職。

アンケート結果

参加者数 323人
(一般：216人、企業：83人、公共団体等：24人)

アンケート回答者数 230人(回答率：71.2%)



自由意見

- 幸田町の活動がすごいいいと思いました。
- AIを使って平和な世界が来ると良いと思います。
- 素晴らしい時間でした。あっという間の1.5時間でした。
- 日々進化する技術の現状を少し知ることができて良かった。
- 田丸さんが目線を我々まで下げてわかりやすい内容であった。
- 障がいを持った方々にAIの力で快適な生活が提供されているようで心強かったです。
- 一番最後のMSムービーに感動した。

第14回 平成29年10月19日(木) 午後1時30分～

QRコードの 開発・進化と 普及について



株式会社デンソーウェーブ
 AUTO-ID事業部
 技術2部技術2室 室長
原 昌宏 氏

今では、QRコードは世界中のあらゆる場所で使われ、最近ではアート・ファッション感覚で使われるまでに普及しました。そこで、QRコードの開発当時を振り返り、QRコードの開発・進化、及びここまで一般社会に受け入れられるようになった事の分析を中心に、最新のQRコードの魅力について紹介します。



講師プロフィール

【略歴】

- 1980年 日本電装(現デンソー)入社 第2研究開発部に配属
- 1984年 現在コンビニで使用されているバーコードハンディスキャナを開発・製品化
- 1988年 世界初の多段読取りハンディOCR(文字認識)の開発・製品化
- 1994年 QRコードの開発
- 2001年 デンソーウェーブ出向
- 2002年 世界初の液晶表示対応2次元コードリーダーの開発・製品化

2004年 (社)電子情報技術産業協会(JIDA)の技術オプザーバ就任

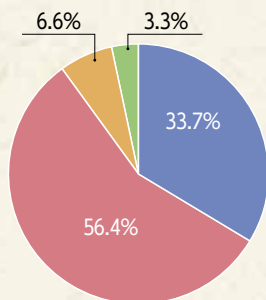
【主な受賞経歴】

- 2000年 中日産業技術賞 特別奨励賞
- 2002年 全国発明表彰 発明賞、R&D 100 Awards(米国)
- 2004年 モバイルプロジェクトアワード 最優秀賞
- 2007年 日本イノベータ大賞 優秀賞
- 2012年 グッドデザイン賞Best100
- 2014年 欧州発明家賞 受賞

アンケート 結果

参加者数 252人
 (一般：168人、企業：53人、公共団体等：31人)

アンケート回答者数 187人(回答率：74.2%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

- 十分得られた 33.7%
- 大体得られた 56.4%
- 難しかった 6.6%
- その他 3.3%

自由意見

- ・とても勉強になりました。熱意を持って行動する。肝に命じます。
- ・講演資料がわかりやすかった。
- ・ただただびっくりしどうです。すばらしい人に大いに期待します。
- ・同じ社員として誇らしく思いました。企画いただき、ありがとうございました。
- ・大変有意義な講演でした。
- ・愛知の製造業が世界のトップであるためには多くの技術者、研究者の方々の日々たゆまぬ努力があると思います。みんなの努力の結果が集まってよりよい社会になっていくおもしろさを感じています。

レーザーによる生産技術の高度化 —可視化による加工現象解明—



大阪大学 名誉教授・工学博士
ナ・デックスレーザーR&D
センター長
片山 聖二 氏

ものづくりの基盤技術である溶接・接合・溶着の分野においては、レーザー加工法が最も注目されている。そこで、レーザー加工現象を高速度ビデオや熱放射温度計、X線透視法などで観察して得られた動画を紹介し、各種の挙動や現象の理解を通じて今後のものづくりプロセス・生産技術の改善・高度化に繋がる本質的知見を紹介する。



講師プロフィール

【略歴】

- 1981年 大阪大学溶接工学研究所助手(工学博士)
- 1997年 大阪大学接合科学研究所助教授
- 2002年～2016年 大阪大学接合科学研究所教授
- 2010年～2016年 レーザ加工学会 会長
- 2013年～2015年 大阪大学接合科学研究所長
- 2016年～ 大阪大学 名誉教授

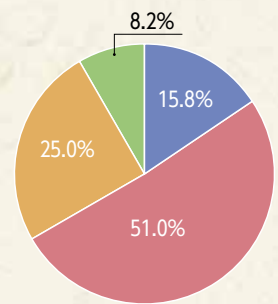
【主な受賞経歴】

- 2007年 平成18年度溶接学会論文賞
- 2009年 第27回軽金属溶接論文賞
- 2012年 経済産業大臣第4回「ものづくり日本大賞」特別賞
- 2013年 Welding in the World, Best Paper Award 2013
- 2014年 平成26年度科学技術分野文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)
- 2016年 第41回井上春成賞

アンケート結果

参加者数 282人
(一般：125人、企業：97人、公共団体等：60人)

アンケート回答者数 204人(回答率：72.3%)



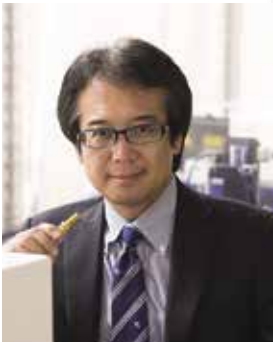
- 役に立つ知識・情報は得られましたか?
- 十分得られた 15.8%
 - 大体得られた 51.0%
 - 難しかった 25.0%
 - その他 8.2%

自由意見

- ・南中の質問でレーザーの身近さがわかった。
- ・新しい知識・技術等、勉強になります。
- ・動画があり、工夫されていて、少しだけ理解できました。
- ・素晴らしい研究にエールを送りたい。
- ・知らない分野だったのでむずかしかったです。興味深かったです。
- ・すごい手法を紹介してもらったと思う。はじめて目で見る世界であった。

第16回 平成30年6月27日(水) 午後1時30分～

手のひらに乗る高強度レーザーが 世界を変える技術イノベーション — 光が拓く新しいエネルギーから生体応用まで —



自然科学研究機構
 分子科学研究所
 准教授
平等 拓範 氏

近年、巨大な高強度レーザー施設がダウンサイズ化され、いつでもどこでも使える装置になると期待されている。講演では、高強度レーザーによる粒子加速等の基礎研究、レーザー加工、ライダー等の産業応用や生体応用など、マイクロ固体フォトニクスの探求で可能となってきたジャイアントパルスレーザーが拓く世界を議論する。

講師プロフィール

1985年 三菱電機、LSI研究所にてTRONチップ開発に従事。
 1989年 福井大学工学部、助手、環境計測、ライダーの研究に従事。
 1993～1994年 スタンフォード大学在外研究員。重力波干渉計のためのYb:YAGレーザー研究に従事。
 1998年 自然科学研究機構分子科学研究所、准教授、マイクロ固体フォトニクス研究に着手。
 2006年 仏パリ第六大、2011年ジョゼフフーリエ大、2013年国立パリ高等化学学校、2006年より豊橋技術科学大学など客員教授。

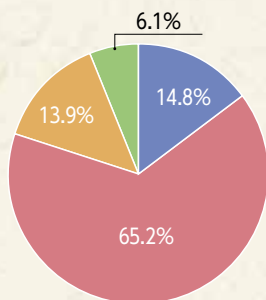


OSAのOptical Materials Expressの上級編集員、OSAの評議員(国際会議)など歴任。
 2010年 OSA、2012年SPIE、2014年IEEE、2018年IAPLE各フェロー。
 2004年、平成16年度文部科学大臣賞(第30回研究功績者)、2008年、第24回光産業技術振興協会 櫻井健二郎氏記念賞、2017年、(公財)レーザー技術総合研究所 泰山賞の他、各種学協会賞受賞など受賞。

アンケート結果

参加者数 203人
 (一般：128人、企業：50人、公共団体等：25人)

アンケート回答者数 125人(回答率：61.6%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

- 十分得られた 14.8%
- 大体得られた 65.2%
- 難しかった 13.9%
- その他 6.1%

自由意見

- ちょっと難しすぎました。でもレーザーの新しい可能性に触られました。
- 先端技術よりももっと身近に感じられる品物の製品を。
- 参考になりました。次回も参加したいと思います。
- 今回は話が目に見えないから理解が得られなかった。
- 地元の産業に関連した最先端技術の講演でした。
- 今まであまり知ることのない知見を得られ有益でした。

「科学を楽しく」 —身のまわりの現象や光触媒を中心に—



東京大学名誉教授
東京理科大学栄誉教授
藤嶋 昭 氏

アサガオはいつ花を開くのか、なぜ氷は水の上に浮くのか、など身のまわりのことには不思議なことが多い。光触媒によって太陽光のもと、雨が降ると家が常にきれいになってしまいう空気もきれいになる。これらのことを楽しくお話ししたい。



講師プロフィール

1942年生まれ。1966年、横浜国立大学工学部卒。1971年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。1971年、神奈川大学工学部専任講師。1975年、東京大学工学部講師。1976～77年、テキサス大学オースチン校博士研究員。1978年、東京大学工学部助教授。1986年、東京大学工学部教授。2003年、東京大学名誉教授。2005年、東京大学特別栄誉教授。2010年、東京理科大学学長。(現任)

現在、東京理科大学栄誉教授、同学光触媒国際研究センター長、東京応化科学技術振興財団理事長、光機能材料研究会会長、吉林大学名誉教授、上海交通大学名誉教授、中国科学院大学名誉教授、北京大学客員教授、ヨーロッパアカデミー会員、中国工程院外国院士。これまで電気化学会会長、日本化学

会会長、日本学術会議会員・科学委員会委員長などを歴任。

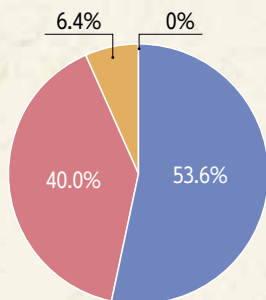
【主な受賞歴】文化勲章(2017年)、トムソン・ロイター引用栄誉賞(2012年)、The Luigi Galvani Medal(2011年)、文化功労者(2010年)、神奈川文化賞(2006年)、恩賜発明賞(2006年)、日本国際賞(2004年)、日本学士院賞(2004年)、産学官連携功労者表彰・内閣総理大臣賞(2004年)、紫綬褒章(2003年)、第1回The Gerischer Award(2003年)、日本化学賞(2000年)、井上春成賞(1998年)、朝日賞(1983年)など。
オリジナル論文(英文のみ)896編、著書(分担執筆、英文含む)約50編、総説・解説494編、特許310編。

アンケート結果

参加者数 361人

(一般:155人、企業:22人、公共団体等:26人、中学生:158人)

アンケート回答者数 295人(回答率:81.7%)



役に立つ知識・情報は得られましたか?

- 十分得られた 53.6%
- 大体得られた 40.0%
- 難しかった 6.4%
- その他 0%

自由意見

- 中学生が参加されていましたが、今後も積極的に参加させてほしいと思いました。
- 先生のお話がわかりやすくおもしろかった。
- たいへんわかりやすい講演でした。
- 中学生にとって世界一の人たちの話を生で聞けることは今後の人生にプラスになると思います。
- 多くの子どもたちに聞かせたいと思った。
- 科学の分野は興味外でしたが役に立ちました。
- もっと難しいかと思っていましたが、わかりやすく講義をしてくださり、参加できて良かったです。
- 中学生が参加されていましたが、将来の夢や希望につながるよい機会になると思いました。
- 地元でこうしたお話を聞ける機会があるのは大変ありがたいです。

第18回 平成31年1月17日(木) 午後1時30分～

心と脳の科学

—人工知能の時代における人間理解—



豊橋技術科学大学
 大学院工学研究科
 情報・知能工学専攻 教授
中内 茂樹 氏

最近の人工知能研究の発展は目を見張るものがある。このままだと人間の職業がどんどん奪われてしまうのではという不安の声もある。とはいえ、ロボットには何が出来ないのか、人間だけに出来ることは何か、まだ誰も答えを知らない。本講演では美しさやヒラメキといった人間らしさに関わる最近の認知科学の研究成果についてご紹介し、人間とは何かについて考えてみたい。



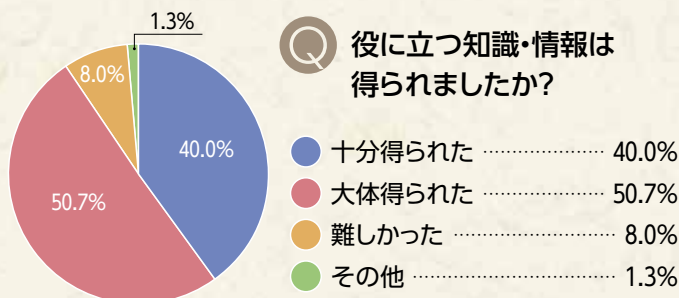
講師プロフィール

1993年、豊橋技術科学大学大学院博士課程修了。
 現在、豊橋技術科学大学情報・知能工学系教授。
 2017年より東フィンランド大学Docent (School of Computing)
 2018年より日本学術振興会専門研究員(情報学分野)。
 色覚、質感認知などの視知覚や視覚認知機構に関する基礎研究とともに、視覚科学に裏付けされた視覚技術(機能的な光源、イメージング)に関する研究に従事。2011年文部科学大臣賞、経済産業大臣賞受賞。博士(工学)。

アンケート結果

参加者数 246人
 (一般: 165人、企業: 38人、公共団体等: 23人、高校生: 20人)

アンケート回答者数 163人(回答率: 66.3%)



自由意見

- ・大変興味をそそられる講演、ありがとうございました。
- ・丁寧なわかりやすい内容でした。
- ・人間と科学の間のことに大きな興味を持った。
- ・難しい内容でしたが興味をもって聞けました。
- ・色の見え方が人によって大きく違うのが分かったことが面白かったです。
- ・瞳孔の話がとても興味を持ちました。
- ・講師の先生の話がわかりやすかった。
- ・脳と人間の体の不思議さを知って、人間のすごい状態が知らずにおこっているのは面白かったです。

富士通のAIと最新テクノロジーが創り出す日本の未来



富士通株式会社
理事 首席エバンジェリスト
中山 五輪男氏



30年後に来るであろうとも言われているシンギュラリティ(技術的特異点)の世界とはどのような世界なのか。人々の生活はどのように劇的に変化していくのか。またAIの進化が既存のビジネスを再定義していきたくも言われており、私たちはAIと今後どのように向き合うべきか。AIの近未来と今について最新事例を動画を交えながら詳しくご紹介します。

講師プロフィール

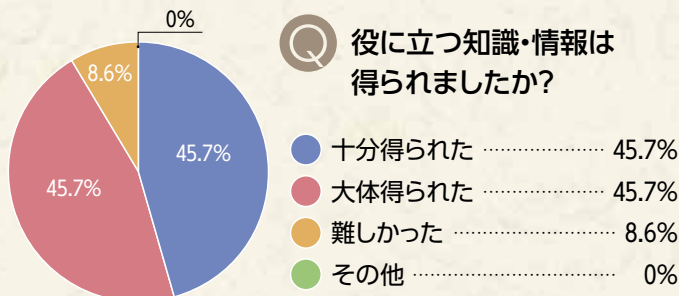
1964年5月、長野県伊那市生まれ。
法政大学工学部電気工学科卒業。
複数の外資系ITベンダーさらにはソフトバンク社を経て、現在は富士通の理事および首席エバンジェリストとして幅広く活動中。
AI、クラウド、IoT、スマートデバイス、ロボットの5分野を得意分野とし年間約300回の全国各地での講演活動を通じてビジネスユーザーへの訴求活動を実践している。様々な書籍の執筆活動や複数のTV番組出演での訴求など、エバンジェリストとしての活動をしつつ、国内30以上の大学での特別講師も務めている。



アンケート結果

参加者数 241人
(一般：146人、企業：59人、公共団体等：36人)

アンケート回答者数 176人(回答率：61.8%)



自由意見

- 無料にてこんな素晴らしい会をありがとうございます。
- 中・高・大学生や学校の先生達にも聴く機会があるといいです。
- 今回の内容は今後の世の中の変革を展望するのに大いに参考になると思う。
- とても理解できて楽しかったです。
- 映像による講演の進め方、よくわかります。このような方式を採用してください。
- 近未来が勉強できました。
- 毎回有意義な会と思っています。
- 1年後また講演をお聞きしたい。

第20回 令和2年1月17日(金) 午後1時30分～

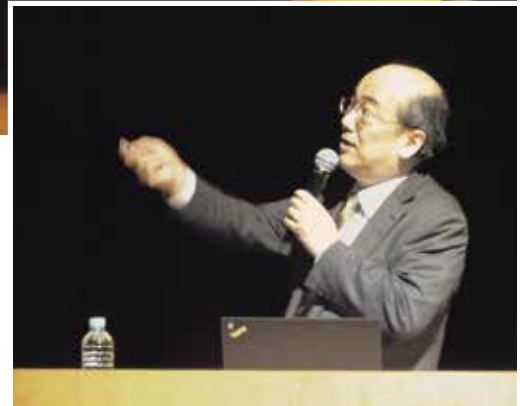
若者が夢を抱いている最新ロボットの研究 ～人型作業ロボ、変形飛行ロボ、ハイブリッド義足、 教育ロボ など～



東京大学 大学院
 情報理工学系研究科
 創造情報学専攻 教授
稲葉 雅幸氏

若者が夢を抱いている
 最新ロボットの研究
 ～人型作業ロボ、変形飛行ロボ、
 ハイブリッド義足、教育ロボなど～

稲葉 雅幸
 東京大学 大学院 情報理工学系研究科
 創造情報学専攻 / 知能機械情報学専攻
 情報システム工学研究室
<http://www.jsk.tu-tokyo.ac.jp>



大学の研究室には、学部4年生、修士、博士課程の学生が集まります。学生は各自の研究テーマを掲げ、日々の活動を決めて、学会発表を行ってゆき、各自の活動の成果がどのような評価を受けるかを知り、次の進路へ進んでゆきます。東大でロボットの研究を進めてきている情報システム工学研究室での活動をご紹介します。

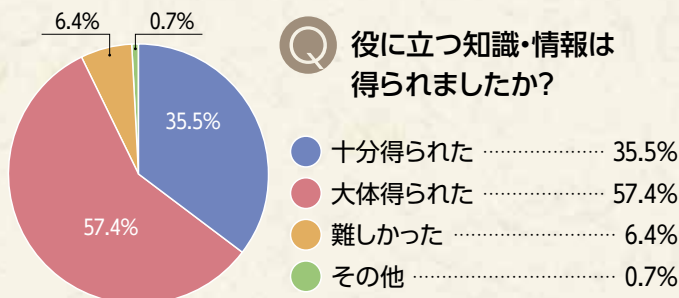
講師プロフィール

1981年 東京大学工学部機械工学科卒業
 1986年 東京大学大学院情報工学専門課程博士課程修了、工学博士
 1986年 東京大学講師 工学部機械工学科
 1989年 東京大学助教授 大学院工学系研究科 情報工学専攻
 2000年 東京大学教授 大学院工学系研究科 情報学環・学際情報学府
 2005年 東京大学教授 大学院情報理工学系研究科 創造情報工学専攻
【主な受賞経歴】
 1987・1998・1999年 日本ロボット学会論文賞
 1988年 計測自動制御学会技術賞

1994・1996・2002年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門 ROBOMECH賞
 1994年 JIRA Award
 1997年 日本ロボット学会実用化技術賞
 1998年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門業績賞
 2000・2006年 Humanoids Best Paper Award
 2004年 日本ロボット学会欧文誌論文賞
 2008年 IROS 2008 Best Paper RoboCup Award
 2012年 計測自動制御学会システムインテグレーション部門 学術 業績賞

アンケート結果

参加者数 353人
 (一般:122人、企業:31人、公共団体等:20人、中学生・高校生:180人)
アンケート回答者数 314人(回答率:89.0%)



自由意見

- 幸田町の講演会は先端技術の話が聞けるところが良いです。今後もぜひ続けてください。
- 今後の研究分野のトップ、リーダーのレクチャーを希望します。
- ロボットの世界が日々進化していることに驚きました。また、この先生のロボットの基礎が若者に提示され、開かれた世界へ、未来へとつながっていく教育者の姿にエネルギーを感じました。
- 新しいロボットがどんどん生まれる風土の一部を教えていただけたのがありがたかったです。

幸田町との関わり

講師を務めていただいた平等拓範先生と藤嶋昭先生には、その後も幸田町をご指導いただいております。

TILAコンソーシアム [第16回プレステージレクチャーズ講演会からの関わり]

幸田町は令和2年4月から自然科学研究機構 分子科学研究所 社会連携部門 特任教授の平等拓範先生の研究グループが推進する企業等のイノベーションを支援するため、TILAコンソーシアム(小型集積レーザーコンソーシアム)に加入しています。

ホームページ(URL) <https://tila.ims.ac.jp/>

出前講座 [第17回プレステージレクチャーズ講演会からの関わり]

令和元年に南部中学校と中央小学校にて東京理科大学栄誉教授の藤嶋昭先生の出前講座が開催され、児童生徒たちは目を輝かせながら先生の話に耳を傾けていました。

■南部中学校

開催日時 ■ 令和元年10月7日(月)

参加人数 ■ 222人

テーマ ■ 身のまわりの不思議や偉人の素晴らしさに
感動し、楽しく勉強しよう



■中央小学校

開催日時 ■ 令和元年10月8日(火)

参加人数 ■ 190人

テーマ ■ 科学を楽しく
～小さな疑問から大きな発見～



※本誌掲載情報は講演当時のものです。

プレステージレクチャーズ講演録

発行日 令和3年2月26日

発行 幸田町役場 企業部 企業立地課 創業支援グループ
〒444-0192 愛知県額田郡幸田町大字菱池字元林1番地1
TEL.0564-63-5137 FAX.0564-63-5139

印刷 共和印刷株式会社
愛知県豊橋市小池町36-1

